

街の魅力をサイクリングで発見

千種区を探検し、街の魅力を発見する「千の種あかし隊」の第九回「サイクリングで千の種みつげよう」(子ども建築研究会・千種区役所主催)が五月二十六日に開かれ、小学生十人と保護者四人が参加した。覚王山日泰寺から名古屋大学まで自転車に乗って約一時間自由に散策し、子どもたち独自の視点で街の魅力をみつげ出した。

参加者は五班に分かれ、それぞれ「意味不明なもの」「絶景」「歴史」「木」「水」というテーマを決め、コースも班ごとに考えサイクリングに出発。同研究会の名古屋大学、名古屋市立大学の

教授と学生が引率した。子どもたちは元気に走り回り、面白いものを見つけてはデジタルカメラで撮影。名古屋大学に到着後、班ごとに写真を白地図に貼り、魅力を書き込んだ。「千の種マップ」を作って発表した。

「意味不明なもの」班は平和公園アクアタワーを「建築物のイナバウアー」と表現。元ボウリング場の駐車場に置かれたままの巨大なボウリングのピン、面白い名称の店の看板などユニークな物

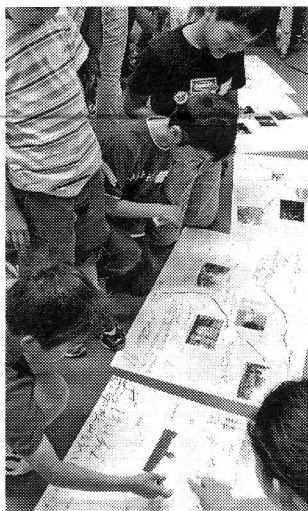
体をたくさん見つけた。「絶景」班はナゴヤドームや東山給水塔などが望める坂の上のビューポイントを発見。「歴史」班は城山八幡宮などを散策。鳥居や石灯笼、緑の森など神社ならではの魅力に接近した。

「木」班は町中の公園や東山動物園前などで、コケだらけの樹木やシタのような葉の木に注目。「水」班は振甫プール、鍋屋上野浄水場、蝸ヶ池八幡宮、本山駅付近の山崎川と広範囲にサイクリング。揚輝荘の池では水面近くにきらめく美しいクモの巣を発見した。

「千の種あかし隊」第9回



日泰寺山門からサイクリングに出発!



「どれが面白かったかな」参加者同士で投票審査